

# 全国労組 交流センター 合宿に集ろう

五月六日・七日  
伊豆大川  
『国労教育センター』

静岡県賀茂郡伊豆町大川  
四一九一

(〇五五七一三三二二五六七)

二月二六日、佐藤芳夫氏(東京地域連帯労組委員長)と中野委員長(呼びかけ)によって「全国労組交流センター」が結成され二ヶ月を経過した。

この間、動労千葉は、志を同じくする全国の仲間たちの熱い連帯と期待の中で春闘二波のストライキ、四・一五、十周年レセプションをはじめとして「新たな十年を切り開く」、決意に燃えて活発な運動に突入している。われわれは、十年間の闘いの成果と教訓のうえに激動の九〇年代を闘い勝利するために組合員・家族の団結強化はもとより一人でも多くの闘う仲間の大同団結が求められている。こうした時代の要請に答えるものとして、反「連合」、反統一労組懇の旗色を鮮明に掲げ、

未組織労働者、失業者であらうと一人の労働者が苦しいときに心から頼りにできる労働運動をめざし「全国労働組合交流センター」が結成された。この意義は絶大である。資本、会社の忠実な下僕となりはて労働者の権利を自ら売りわたした帝国主義の侵略戦争を讃美する、それが「連合」である。そこには、自民党支持を公然と打ち出した革マル「鉄道労連」さえも「歓迎」するといふのだ。このような「連合」をどうして許せようか!

他方、日本共産党統一一労組懇は、「自治体労働者奉仕」論や「教師聖職」論に見られるようにタテ前は「反連合」を掲げ、実際には日共のもとへの囲い込みと分裂策動

日本労働者階級人民の先頭で

はばたけ 動労千葉



10周年レセプションに寄せられたハガキ MN君(学生)より。

10周年レセプション

県労連 (挨拶)

広田事務局長

いま私たちは、組織的にも、そして政治・経済的にも大きな変革の時代におかれています。

この中で、私たち労働者のおかれてある立場を、キチッと腹にすえて行かなければならないと思う。

千葉動労のこれからの十年間は、ますますきびしくなってくると思います。私は、今日まで闘い抜いた動労の皆さん方の熱意と情熱で、今後さらに十年間、キチッと闘い抜くことを信念として持ち続ける事を祈年させていただきます。

そういう意味で、多くの仲間と、そして鉄路に働く皆さん方と共に手をたずさえて、今後も歩き続けることを誓います。